

樫谷議員 おはようございます。通告しておりました2件について、一般質問をさせていただきます。まず1つ目でありますが、室内用耐震シェルター実施に向けた取り組みについて質問させていただきます。3月本議会の後、このことについて少し触れたのですが、あまり町長はじめ理解されていないようでしたので、あえて説明をさせていただきますが、耐震シェルターとは、地震によって家屋が倒壊した場合でも、局所的な安全空間の確保を目的として室内に設置する頑丈な大きな箱のことです。壁や漆喰を増すことなどで家屋全体の安全性能を向上させる一般的な耐震改修とは異なり、耐震シェルターは家屋内の部屋の中に頑丈な部屋、つまり耐震シェルターを設置することで、地震時の家屋の倒壊から身を守る避難場所の設置を提供することです。家全体の改修工事に比べて安値で、約3日程度の工事期間、さらに工期中の引っ越しは不要で徳島県産材すぎの有効活用し居住性を重視するとともに津波に備えた脱出口も備えています。昨年の想定を超える震災被害を受けて、防災、減災への意識が高まっております。昭和57年までの耐震改修の補助金制度は設けられていますが、では、それ以降の家屋は耐震が大丈夫かと言えば、どうでしょうか。自分の住まいは地震に耐えるのかという不安がある一方、景気が良くならない中、何とかして地震時の命を守りたいが、予算がないという方々にリフォーム助成を是非行って欲しいと思います。徳島県をはじめ各自治体が既に着々この事業に取り組んでおります。県の補助金をうまく取り入れながら、町補助金も含め負担金を軽減するという意味で検討してみてもどうか、既に石井町、神山町、吉野川市、美馬市、鳴門、その他の自治体などは積極的に既に行っています。牟岐町も地震から命を守る緊急対策事業として取り組まれてはどうか、命を守る最も大切な原点に戻り、本町に耐震シェルターのリフォームに関する住宅改修助成制度の創設を要望いたします。次に2点目にあります、千年サンゴの里、今後の見解について質問させていただきます。今年3月24日にオープンしました牟岐町物産館、千年サンゴの里の進捗状況と今後の見通しについてお聞きいたします。牟岐町の宣伝や牟岐町内の出品、加工品などを主に展示即売をするという牟岐町の活性化を目的とした町長の新しい取り組みとして、実施された事業ですが、オープン以降にもよくばり体験や修学旅行の受け入れもしてい

ますが、町長の当初の実現の効果はあったのでしょうか。実質的には、商工会にお任せしている部分が多いわけですが、本議会でも予算の補正がなされています。臨時職員2名とその休暇のための臨時補充員、光熱費、水道費、その他備品、消耗品等の2,891千円が計上されていますが、この上に家賃、月150千円と臨時職員2名の人件費と財源の厳しいなか経費もかさんでおります。オープン以来の状況は、どのようになっているのかお聞きいたします。よくばり体験や修学旅行の成果はあったのか、また、出品者への収益はどのくらいなのか、牟岐町の活性化にはどれくらいの効果があるのか、そこに見えてくる今後の課題はどうか、さらに牟岐町として、今後どのような形でサポートしていくのか、その期間については、どのように考えているのかも併せてお聞きいたします。以上、2点について答弁をお願いいたします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 榎谷議員のご質問にお答えさせていただきます。まず室内の耐震シェルターの実施に向けた取り組みと言いますか、助成についてということですが、議員ご指摘のとおり、将来必ず来ると言われている南海地震が、三連動地震となった場合、今年の3月に公表された国の内閣府の想定震度は、牟岐町で最大の7と言われております。最大級の地震が到来した場合、津波が来る前に家屋倒壊、或いは、家屋の下敷きにならないようにしなければ、避難することもできません。その意味で従来より推進している耐震診断、耐震改修は非常に重要であると認識しております。しかしながら、日本の伝統家屋は、筋交い、或いは、耐力壁を入れるという改修が非常に難しいとか、耐震改修工事費が高いとかの理由で改修が進んでおりません。従って、県としてもできるだけ安い経費で少しでも耐震性能の向上を図るため命だけは守るリフォーム、住まいの安全安心なリフォーム支援事業を実施しておりますが、牟岐町でも今年度より県の事業に併せ上乘せ補助事業を実施しております。補助率は2分の1で県費補助と町の補助を合わせ最高500千円までの補助となっております。ただ、この事業により耐震シェルターを設置し補助を受けるためには、

耐震診断を受ける必要がございます。また、対象建物が昭和56年5月31日以前に着工した建物であること。工事費が200千円以上であること。県内の建設業者が行うなどの条件でございます。さらに町の上乗せ補助を受けるためには、町内の建設業者が行うという条件もございます。必ず来ると言われている南海地震に備え、できるだけ多くの町民の皆様が耐震改修を実施していただくと期待しております。次に千年サンゴの里の進捗状況及び今後の展開についてということでございますが、牟岐町観光物産館千年サンゴの里は、現在牟岐町に土産物が殆ど無く、よくばり体験でせっかくきていただいた旅行者の方にも土産物が日和佐か松茂で買って行っていただいているような状況でございます。私といたしましては、牟岐町にお越しいただいた方には、牟岐町で土産物を買っていただきたいとの思いから、また、牟岐町の役場の所在が町内には非常に分かりにくい位置にございますので、多くの市町村にある観光案内所を役場以外にも設置したいとの思いから観光物産館を設置いたしました。現在は所在は分かりにくいとか商品がないとか、陳列方法が悪いとか、いろいろご批評、ご批判をいただいているところでございますが、おそらくこのような理由から殆ど来客がないと言われております。私はこのような目的の施設、つまり牟岐町の土産を買える施設、また、意欲があるけども資本が無い方でも商品を展示販売できる施設、そして、観光客の方に案内ができる施設は町内に必要だと考えておりますので、今後とも商工会の皆様とともにご指摘をいただいた点を改善いたしまして、できるだけ早く経営が軌道にのるよう進めてまいりたいと考えております。詳細は課長の方からお答えいたしますので、よろしくお願いいたします。

枅富議長 久米産業課長。

久米産業課長 只今の町長の答弁を少々補足させていただきます。牟岐町の新しい物産館でございますが、町長からも事業の目的等、概略の説明がございましたが、町長が申しました主として土産物のご説明がございましたが、その他にも特産品の創出が主としまして既存特産品の紹介、それから、販売手段を

お持ちでない創作者の作品等の展示販売、その流通の開拓、また、もう一つの目的であります観光資源の案内やそれに加えて不動産情報などを内外へ発信することによって、交流人口を増やして牟岐町の産業、観光の活性化を図ることを目的といたしております。こういう趣旨の事業をこれから展開する段階でございますが、開設に当たりまして、スタート段階で委託先である商工会さんと町の方で十分、詳細な協議が若干遅れたこともございまして、スタート時点で出遅れ感がございます。町長からもご説明ございましたが、種々のご批判、それから、励ましのお言葉、種々いただいておりますが、只今、商工会さんと連携いたしまして、その基盤づくりを懸命に行っているところでございます。オープンからちょうど3ヵ月経過いたしましたところでございますが、データを4月9日から取り始めておりまして、6月中旬までの来場者数は、開館日57日間で1,200人で1日平均、約21名でございます。1日の最大人数は、ゴールデンウィーク、5月4日の60人、その内、町外からの来場者の割合は、約22%でございます。来場者数及び町外の方とかについては、スタッフが把握できた範囲の人数でございまして、来場した実数は若干多くなると思っております。売上の方でございますが、この間のトータルで800千円弱でございます。1日平均にしますと14千円でございます。来場者数、それから施設の売上ともに決して胸を張れる多い数字ではありません。改善すべきところは改善し、目指すところの施設機能を早急に確立することが重要であると考えております。ただ、運営について先ほど申し上げましたが、事前協議等が不十分であった分がありまして、商工会のスタッフの方々には、いまご苦労をお掛けしているところでございます。今後でございますが、基盤づくりと並行いたしまして、協力団体、個人等の拡充を図りまして、千年サンゴの里を軸とした産業、観光のネットワーク構築によりまして、事業の展開に期待をいたしております。よくばり体験でございますが、徐々に連携を取りまして、十分期待に応えられるような、そういう状況をいま連携を協議しているところでございます。以上でございます。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 再問させていただきます。まず耐震シェルターの実施に向けての取組についてですが、56年以降、57年からの分は、資格がないのでしょうか。そういうふうな部屋をかまえるということになったら、私のところは、私ごとで恐縮なのですが、平成元年に建てておりますが、耐震をさせていただきましたら、やっぱり駄目だということで、耐震改修をしますと、約1,600千円から1,700千円要ると、平成元年の家でもそうなのです。だから、それを1,600千円も1,700千円も出してするのであれば、1部屋だけ安全なここだけ上からも落ちてこないという1部屋だけ確保して、まず地震に耐えて、それから津波で逃げるというようなことで、地震で家屋が押し潰されて生きているのですけど、逃げられない状態であれば、幾ら避難所を造っていただいてもそこまで行けないのですよね。まず地震に耐えられる家を1箱作っていただくという形で、そういうような方のシェルターを造る方の補助金制度ということなのです。56年度まではその資格があるようなご返答でしたけども、元年でもそういうようなことで危ないとされておりますので、全部するには莫大なお金がかかりますので、1部屋だけここに居れば安心なのだという1部屋だけを確保するというので、是非、牟岐町に推進していただきたいと思いますので、これも県の補助金が付いております。シェルターについては、付いております。それに町の補助金も少し足して、できるだけ点検できるような、何百万円も要りませんので、これは、何百万円も要りませんので、是非、防災活用ということにして欲しいと思います。地震が来て津波が来て、その間には火災も起こるだろうと思いますけれども、それから、逃げるということですので、是非して欲しいと思います。それから、町長、質問の内容が食い違うと思うのですが、東の住宅のあわいですね、ああいったところも家屋が崩壊したら逃げられないのですね。そういった対策はどうなっているのか、或いは、古いブロック塀がたくさんあります。そういったことも踏まえてブロック塀が倒れてきた場合、逃げるのに避難し、また、逃げている時にブロック塀の下敷きになるということもありますので、西もたくさんありますけど、特に東にはあわい、路地がたくさんあります。その家が密集しておりますので、そこら辺りの避難と言うか、

避難所に行けるような対策も考えて欲しいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。それから、2点目の千年サンゴのことですが、開店が10時ということで、3月の当初にオープンしました、美波町でお山の大將がオープンしました。そこは8時半には開いております。夜遅くも開いています。今、2人の職員がおいででしたら、時間をずらして早朝8時半から出る人とずらして後に残る人というようなことも今の数字から言いますと、1人になってもそんなに忙しくて、忙しくて手が回らないというような人数でもありませんので、来客、来てくれる人も、そういったことも工夫を重ねて、できるだけ早く、遅く開かれるような形にしたら良いのではないかと思います。もう1つは、何を置いても人が集まる工夫を模索していただかないと、実際、町民の声を聞きますと、1回行ったら2度とあまり行きたくないというふうな日替わりのなものがない。今日は何が出ているのだろうか、今日は何の出品があるのだろうかという来客をわくわくさせるような、やっぱりそういうふうな人を集まれるような工夫を是非して欲しいと思いますので、商工会との方々とも協議しまして、そういうふうな形でどんどんどんどん、それと品数が少ないということも聞いておりますので、今後とも継続していくのであれば、いつ行っても中に誰も居ない状態では困りますので、よろしくお願ひしたいと思います。1つ1点、時期的なものは、あの物産館をする間、ずっとこういった経費を持ち続けていくのかどうかということを加えて再問としますので、再問答并よろしくお願ひします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 耐震シェルターですけども、基本的に法的にフォローできていなかったと言いますか、建築基準法ではですね、カバーできていなかった部分での補助ということでやっております。基本的に、耐震シェルターと言えども県の方は、耐震診断をしたものの、耐震上不備があるもののフォローということで、耐震診断をして、その結果駄目だったものは設置できるということでやっております。ですから、昭和57年以降に建てたものは、建築基準法上、耐震上、

一部いけるということになっておりますので、現実的には施工上、例えば、筋交いの端の部分が綺麗に固定できていないとか、そういうこともございまして、耐震上の問題があるものもあるのですが、それは本来個人の方がちゃんとやっておくべきだった。大工さんの方が施工すべきだったということで、現時点では、補助はございません。基本的な考え方として、個人財産の価値を上げるようなことというのは、公的機関がすべきことではないという考え方がございますよね。ただ、耐震の問題については、人命に係わることで非常に大きなことなので、やむを得ないということで、いつの頃からか補助できるようになりましたけども、これ当初からしっかりした建物を建てている方とそうでない方の差というのがあるのですよね。当初から耐震の問題の建物を建てた方のカバーをするというのが、平等なやり方かどうかというふうなところでの議論もあると思うのですけどね。ですから、非常に難しい問題もはらんでおりますので、今後国とか県の動向を見ながら町としても補助すべきところは補助したいと考えておりますけども、現時点では、昭和56年5月31日以前に着工したものについて耐震改修やる場合、若しくは、耐震シェルターを設置する場合に助成ができるというふうな考え方でやっております。それと、千年サンゴの里ですけども確かに始業が遅くて終了が早いということで、ご批判いただいております。現在、その見直しについても検討いたしております。それと、商品の品揃えの少ない部分は、牟岐町の現時点での土産物が少ないということもあるのですけども、確かに工夫も非常に少ないのですけども、これから何とか皆さんで力を合せて、できるだけ多くの土産物が売り出せるように頑張ってもらいたいと思いますので、よろしく願いいたします。それと、いつまでも町が施設をやっていくのかということでございますけども、それは現時点での判断は非常にちょっと、まだ3ヵ月しか経っておりませんので、1年を経過した時点で再度検討したいと思いますので、よろしく願いいたします。

杣富議長 栗林総務課長。

栗林総務課長 榎谷議員のブロック塀の関係の再問にお答えいたします。プロ

ツク堀の危険な箇所を取り除き、或いは、改修につきましては、昨年も地元地区の自主防、或いは、部落会、それから、持ち主の方等の要望なり、いろいろ協議いたしまして、実施させてもらっています。計画的にどの箇所をやるとかいうふうな計画は立てておりませんが、今後、地区、或いは、自主防、ご要望がありましたら持ち主の方と相談して行きながら、少しずつでもできればと考えておりますが、先ほど申し上げたように1つの事業として計画できておりません。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 再々問お願いいたします。1番のシェルターについては、56年度までということで、57年度については補助金を考えていないと、56年までは補助金は考えているということですね。57年度以降で耐震したら耐震が駄目だということで、全部したら1,000千円以上で、おおかた2,000千円掛かると、そんなお金は出せないということで、せめて1室できるだけでも頑丈な命を守る部屋を1つ造りたいということについては、全て実費でやってくださいということですね。

福井町長 現時点では、そういうことですね。

榎谷議員 実費でやってくださいということですね。それについての補助金は出ないということですね。それと、サンゴの方ですが、1年を目途にということですので、来年、今年年度末一杯ということで再度考えてみるということによろしいのでしょうか。以上で一般質問を終わります。